

## 援助隊の消防隊員が発起人

能登半島地震や奥能登豪雨を受け、自由に体を動かして遊ぶことが難しくなった能登の子どもたちに、金沢でのキャンプを通じて交流を深めてもらう取り組みがスタートした。26日、NPO法人などが企画した1泊2日のアウトドア合宿の第1弾が始まり、輪島市と志賀町の小学生約40人が参加、金沢城公園の散策や太陽が丘の施設でカレーを作って一緒に時間を過ごした。合宿は他の被災市町の子どもにも対象を広げて継続開催を予定している。

発起人は名古屋市の消防局の消防隊員太田信吾さん(45)。地震発生後に緊急消防援助隊の一員として輪島市門前地区に派遣され、2月に活動が終わると「仕事でやりきれなかったことがある」と能登でボランティアを始めた。毎週名古屋から炊き出しや支援物資の運搬に訪れており、今回の合宿で石川入りは31回目となった。

支援活動に取り組む中で、地震後に引きこもりがちになった子どもが多いことを知ったという。金沢市内のNPO法人「みらいプロジェクト」に相談したところ、施設やスタッフの提供を受けられることが決まり、合宿が企画された。26日は、2台のバスに乗り合わせた子どもたちが、金沢城公園に集合。一緒に弁当を食べ、鬼ご

# 能登の子に遊びの場を



カレーを食べながら一緒に写真を撮る児童  
＝太陽が丘3丁目の太陽丘こども園

## 40人、キャンプで交流

こや落ち葉を拾って遊んだ。太陽ゲームセンターやマリントウンが丘こども園(太陽が丘3丁目)に移動すると、キャンプファイヤーで盛り上がった。27、28日は輪島市町野町の小中学生を対象にした合宿を開く。支援団体の協力で参加費は食事を含めて無料。太田さんは「できる」と笑顔を見せ、輪島市輪島中1年の若狭郁海さんは「地震で地元のを寄せてほしい」と語った。